

ゆうこのみゆぎ。



## なるほどアイヌ文化トーク ソッコ de ソッコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた  
本田優子(札幌大学教授)と  
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、  
その魅力をソッコ(=お便り)形式で語り合います。



今月のテーマ **イナウ(木幣)**



イラスト/安田千夏

アイヌがカムイ(神)を祀るときに欠かせないのが酒とイナウ(木幣)だと言われますよね。私たち人間の祈りはカムイには直接伝わらないものとされているので、その間を取り持つのもイナウの役割のひとつなんだって。人間の言葉の足りないところを補い、間違いを正してカムイに言葉を伝えてくれる、便利で重要なアイテムのひとつなの。

白老の儀式では、チエホロカケフ(逆さ削りの木幣)と呼ばれるイナウを火の神のイナウとして炉に立てることから始まります。通常、イナウは木が生える状態と同じように根元側を足、木の上方が頭になるように作られるので、イナウにキケ(削りかけ)をつける場合は根元から上方に向かってマキリ(小刀)を入れるのが基本。でもチエホロカケフはその逆で、木の先から根元に向かってキケを削ることからこの名前と呼ばれるの。キケを削ることからこの名前ですのが特徴のイナウなの。

九月になるとサケを迎える儀式が各地で行なわれ、私の勤めるアイヌ民族博物館でも白老川とウヨロ川が合流する河口付近でベッカマイノ(三川の祈り)を実施しているの。その場に設置されるヌササン(祭壇)にはチエホロカケフをはじめ、いろんな形のイナウが並びますよ。



儀式の場には必ずたくさんさんのイナウが立てられていて、それが華やかで荘厳な雰囲気を出しているよね。キケパラセイナウはたくさん帯状の木片が、ものすごく薄く削られてクルクル巻き、それがフワッと広がっているイナウ。不謹慎かもしれないけど、初めて見た瞬間、「なんて綺麗なふわふわカール! 素敵な女性のロングソバージュヘアみたい!」って思っちゃった。この見事なカールを作り出すために、どの地域でも、まっすぐに伸びて柔らかく削りやすい材質の木が好まれるんだよね。

なにより大切なのは、この美しいイナウはカムイたちに対する最高のプレゼントだということ。儀式の後、目に見えるイナウの形は人間世界に残っているけれど、その魂は人間たちが捧げたお酒や祈りのことばと一緒に神の国に向かっていき、着いた途端に素晴らしい宝物になるの。私が暮らしていた二風谷あたりではヤナギやミズキでイナウを作ることが多く、ヤナギは銀に、ミズキは金になると言われている。でも、たとえば千歳の工カシ(おじいさん)は、ミズキのイナウは銀になりキハダのイナウが金になるとおっしゃっている。まあ、そういう地域差はあるにせよ、とにかくアイヌの男性たちは代々、カムイに喜んでもらえるように心をこめて美しいイナウを作ってきたんですね。

